

顯本論より見たる成佛

溝田 在庵

佛教本來の眞面目たるや當機益物に任る事敢て言を須たず、而も吾人の是れに對する最大の要求たるや即身の成佛にある事又敢て言ふを得べきや故に今其れを論せんとするものなるも、第一に吾人の心とちささる可からざるものは信行の二あり是れ吾人の成佛を期するの最大要件なる事を寸時も忘却すべからざるものなり。

聖祖云く、

法華已前ノ諸ノ小乘經ニハ女人ノ成佛ヲ許サズ諸大乘經ニハ成佛往生ヲ許スヤウナレドモ或ハ改轉ノ成佛ニシテ一佛ニシテ一念三千ノ成佛ニアラザレバ有名無實ノ成佛往生ナリ舉一例諸ト申シテ龍女成佛ハ末代ノ女人ノ成佛往生ノ道ヲフミアケタルナルベシ「開目抄」八〇四

又云く、

イカニモ純圓一實ノ經ニアラズバ即身成佛ハア

ルマジキ道理アリ大日經金剛頂經等ノ眞言經ニハ其人ナシ又經文ヲ見ルニ兼但對帶ノ旨分明也二乗成佛ナシ久遠實成アトヲケヅル「妙一女抄」
と、由是觀此成佛と云ふ事唯法華經に限る諸經に此を許さず然れば台當何れも可と云ふを得べきか、否然らず即ち台家は唯迹一部の立脚當家は唯本一部の立脚に居するもの、即ち聖祖の

傳教大師云能化龍女無歷劫行所化衆生亦無歷劫能化所化俱無歷劫妙法經力即身成佛等云々又法華經ノ即身成佛ニ二種アリ迹門ハ理具ノ即身成佛本門ハ事ノ即身成佛也今本門ノ即身成佛ハ當位即妙本有不改ト斷ズルナレバ肉身ヲ其マ、本有無作ノ三身如來ト云ヘル是也此法門ハ一代諸經ノ中無レ之文句云於諸經中秘之不傳等云々「妙一女抄」一九八二

と以て當知台家は理具の成佛にして不可當家は事具の成佛にして出世の本懷に契へるものある事を、然るに單に成佛といふもの豈一なりと爲んや謂く當体即成謂く受授即成謂く修得顯現の成佛な

り。今是に對する解釋を加へんとするに當り、先づ相好に就いて一言する所あらんとす。即ち此を解釋するに二様ある事を知るべし、謂く一は通途諸佛の上に云ふが如し、二は然らず即ち父母所生の身にして而も三業に妙法を受持し受得し聖祖の此三如是本覺如來十方法界爲身體十方法界爲心性十方法界爲相好是故我身本覺三身如來身體也

〔勘文抄一八九七〕

と如斯開覺し而此境界に信達せる時父母所生の當体に三十二相八十私好を具足し、吾人の擧手投足一として已心本佛の用ならざるはあし、故に御義に(下十七ウ)

久遠トハハタラカサズツクロハズモトノ儘ト云フ義ナリ無作ノ三身ナレバ初メテ成ゼズ是レ働カザルナリ三十二相八十私好ヲ具足セズ是レ繕ハザルナリ本有常住ノ佛ナレバ本ノ儘ナリ是レヲ久遠ト云フナリ

と云ふものはれ通途の相好にして今の意に非ず而も御義と之と意に於て何の相違かあらん、即ち

今の意は聖祖の newly 書に(續七オ) (外四)

佛ニ成リ候事ハ別ノ様ハ候ハズ南無妙法蓮華經ト他事ナク唱ヘ申シテ候ヘバ天然ト三十二相八十私好ヲ備フル也如我等無異ト申シテ釋尊程ノ佛ニヤス〜ト成リ候也

と即ち是れなり。

蓋し成佛とは吾人の佛教に對する要求の焦點たり、即ち當體即成は法力の故に受持即成は信力の故に而も共に精神的成佛を期するもの即ち内証成佛にして相好等に係はらず、次に修得顯現の成佛とは信力の故に肉体的成佛を期するもの、即ち外用成佛にして同時に相好等を具足す、而して時間的に之を論せば前二者は共に現在に於ける成佛にして、後者は隔生の具体的成佛あり、而して此等の人は多く誓願に依りて相好を具足す、而も當家の正意と爲る所受持即成にあり、今祖判を引用し以て修行の方法及び成佛の相を示さん即ち云く

無作三身ノ法號ヲ南無妙法蓮華經ト云フ也(御義下九オ)今日蓮等ノ弘通ノ南無妙法蓮華經ハ体ナ

リ心ナリ二十八品ハ用也二十八品ハ助行也題目ハ正行也正行ニ助行ヲ攝ス可キ也「御義下五十四」有智無智ヲ嫌ハズ一同ニ他事ヲ捨テ南無妙法蓮華經ト唱フベシ「報恩抄一五〇九」

釋尊ノ因行果徳ノ二法ハ妙法蓮華經ノ五字ニ具足ス我等此五字ヲ受持スレバ自然ニ彼ノ因果ノ功徳ヲ讓リ與ヘ給フ「本尊抄九四二」

今又以如此文者日蓮也子者日蓮弟子檀那也世界者日本國也益者受持成佛也法者上行所佛ノ題目也「御義下六十オ」

經云如我等無異等云々法華經ヲ得心者ハ釋尊ト齊等ナリト申文ナリ乃至今法華經ノ行者ハ其中衆生悉是吾子ト申シテ教主釋尊ノ御子ナリ教主釋尊ノ如ク法王トナラン事難カルベカラズ但不孝ノ者ハ父母ノ跡ヲツガズ乃至民ノ現身ニ王トナルト凡夫ノ忽ニ佛ニナルト同ジ事ナルベシ一念三千ノ肝要ト申ハコレナリ「日妙上人書八六二」當家の宗骨たる這固の目に至りては吾人後輩の敢て論究するに及ばざる事遠し、而も是れを述べ

ずんば題目に違す、故に吾人は祖判を以てせんと欲し右に諸御書を列す、即ち先づ吾人の對境と爲すべき法体を掲げ、次に其に對して如何に修行すべきかを述べ、後に信行成就し果を証する事を得て、遂に彼の法体に一如する事を得るあり、此處に於てか凡身即佛身を成じて煩惱即菩提あり、又同時に娑婆即寂光の本國土妙を實現するに至る戲乎、大哉本化の道や。

當知吾人の成佛を期するもの若し信なく行なくんば智解如何に進み其說如何に巧妙にして縷々千言萬説を費すとも竟に机上の空論泡説と爲らんのみ、須らく信を篤うし、以て本化の教理を學び、契理の修行精進し信解行滿すれば、期せずして四八の妙相を具し娑婆即寂光の本國土に遊戯快樂するを得ん。

■豈離伽耶別求常寂

亮

遠

おもひきやさめこし峯のあたにして

花のさかりをわのがささ、は